

新庁舎建設検討委員会部会職員ワーキンググループ

第2回 建物構造部会

1. 開催日時 平成30年10月26日（金）午後3時00分から
2. 開催場所 富良野市役所2階 議会打合せ室
3. 出席者 7人（欠席 0）
4. 協議内容

本日の検討部会は、10月12日に開催された市民ワークショップの際に出された意見に関し、当部会の皆様の意見をいただきたい。

テーマ① 防災・セキュリティ

ア 災害時の電源確保について

- ・非常用発電機の持続可能時間は、外部供給無しで72時間。燃料供給業者との協定等により1週間程度の稼働を総務省は推奨している。
- ・浸水対策としては、想定浸水深より上層階（2階以上）に設置が一般的。
- ・燃料タンクや通常時の冷暖房設備によっては、庁舎とは別の電源棟も要検討か。
- ・BCP（事業継続計画）と合わせて電源確保計画を策定し、必要な電源を確保。
- ・K市庁舎では、非常時の電源（コンセント）を色分け表示している。
- ・フリーアクセスフロアになると思われるが、浸水時を考慮した方法はないか。
- ・震災時の転倒防止措置等も必要。

イ 災害時の情報提供（情報サーバー機器等の機能確保）

- ・情報サーバーやその冷房設備への電源の確保。
- ・他市では、サーバーを持たないクラウドへの転換を進めている例もある。
- ・非常用発電機同様に地震対策、浸水対策が必要。

ウ 来庁者及び職員の安全確保

- ・庁舎の耐震化は当然であるが、事務デスクや書棚等の什器類の転倒防止が必要。
- ・執務室内の書棚は極力減らし、低層化するため、書類の減量化が必要。

テーマ② 窓口・行政事務

ア 庁舎案内等

- ・ワンストップ窓口は、来庁者の待ち時間が長くなる。
- ・来庁者は、目的は分かるが、行き先が分からない。
- ・総合案内には、専門の職員配置が必要となる。
- ・同一フロア内は、どこからでも視認可能な看板設置や配置が理想。
- ・窓口業務を全て1階フロアとするには、課内の分断配置となる可能性がある。

イ バリアフリー対応

- ・視覚障害者にとって有用な点字ブロックが、高齢者にとっては障害となるケースがある。K市では、点字ブロックを必要最小限とし、インターホンによる職員呼び出し対応を行っている。

テーマ③ 市民活動支援

ア 文化会館の規模・設備等

- ・年間稼働率や最大入場者数等を勘案し、他の会議室とも兼用できる多目的なホールとして、可動式の座席で十分ではないか？
- ・この問題は、市民ワークショップの中でも意見は分かれており、当部会としては意見は差し控えるが、文化会館の使い手にも配慮した空調設備等については、要検討。
- ・庁舎と文化会館や市民交流施設との合築となると、防音機能も考慮する必要がある。

テーマ④ 建物構造

ア 効率性と経済性、ランニングコストとのバランス

- ・イニシャルコストとランニングコスト両面での検討必要。
- ・太陽熱や自然通風を利用した空調システムがベスト（パッシブデザイン）
- ・東小学校に導入したアースチューブは空調負荷の抑制に効果がある。
- ・ZEB（ネットゼロエネルギービル）登録制度がある。省エネ基準から 50%以上の削減目標（ZEB ready）の建築物に対する補助があるが、一般に ZEB ready で、イニシャルコストが 12%up するようである。

イ バリアフリー・ユニバーサルデザイン

- ・バリアフリー法や各種ユニバーサルデザインに関するガイドライン等に基づいた計画とする。
- ・誰もが利用できる多目的トイレは、各フロアに必要。

以 上。